

ATEM Newsletter

Apr. 2012 NO.22

発行日 :2012年4月10日
 発行 :映画英語教育学会事務局
 住所 :〒169-0075
 東京都新宿区高田馬場
 4-3-12アルク高田馬場4F
 TEL :03-3365-0182
 FAX :03-3360-6364
 E-mail :office@atem.org
 郵便振替 :00820-3-1477

ATEM 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

学会設立18年目を迎えるにあたって



ATEM第4代会長
角山照彦 教授
(広島国際大学)

Teruhiko KADOYAMA

北海道支部の誕生という嬉しいニュースで始まった2012年ですが、早いもので本学会は今年で18年目を迎えます。もうじき設立20周年という節目の年も視野に入って参りましたが、本学会が今後とも着実に発展していきますよう会員の皆様のご理解とご協力をどうかよろしくお願いいたします。

昨年私は会長就任にあたり「学術研究と啓蒙のバランスをとれた“より開かれた学会”として、さらなる発展を目指す」ということを方針として掲げましたが、今年はその実現に向けた施策をできる限り実施していきたいと思っております。

まず、これまで準備を進めて参りました学会紀要のオンラインデータベース化がいよいよ開始されます。これは既刊の紀要掲載論文を国立情報学研究所の運営する学術文献データベースであるNII論文情報ナビゲータ(略称、CiNii[サイニイ])に登録し検索可能とするものですが、これまでの会員の研究成果を幅広く社会に公開してゆくことにつながると確信してお

ります。また、これにより映画英語研究に関する論文検索も従来より容易になりますので、会員の皆様の研究面においても大いに役立つものであろうと思っております。

次に、紀要と並んで学会のもう一つの大きな柱である全国大会においても、今回から様々な支部企画を取り入れ、これまで以上に充実したものになるよう準備を進めているところです。特別研究発表やシンポジウム、ワークショップなど、各支部が独自の視点から「映画で異文化理解を深める」という今回の大会テーマに取り組まれた成果が発表されます。また、韓国の姉妹学会STEMによる研究発表も予定されておりますので、大会やその後の懇親会が異文化理解ツールのための映画利用とその可能性について会員同士が「熱く」語り合い、そして国際学術交流を深めるよい機会になればと願っています。

さらに、広報を一層充実させるべく、学会ホームページの大規模リニューアルを実施いたしました。デザインを一新してより使いやすい形にすると共に、昨年導入しました会員管理システムを活用した会員専用ページにより今後学術研究や教育に役立つコンテンツをより使いやすい形で会員の皆様へ提供してゆくことを予定しています。大会情報なども随時アップデートされてゆきますので是非ご覧ください。

2012年が本学会と会員の皆様にとって更なる飛躍につながる年となることを祈念しております。

紀要掲載論文のオンラインデータベース化について

この度本学会では、国立情報学研究所が運営する学術論文、図書、雑誌等の学術情報データベースであるCiNii(NII論文情報ナビゲータ)に、紀要『映画英語教育研究』第1号～第16号の掲載論文を登録することといたしましたのでお知らせいたします。国立情報学研究所へはすでに紀要データは送付済みですので、登録作業終了後、今年夏ごろから順次公開されてゆきます。

今後学会ホームページには紀要の目次を掲載し、論文自体はリンク先のCiNiiから閲覧してもらう形式を予定しております。大学などの研究機関の多くはCiNiiに関する機関定額契約を結んでおられますので、そうした機関に設置してある端末からでしたら論文全体の閲覧やダウンロードが特別な費用なしに可能となりますし、もちろん個人で利用契約を結んで活用して頂くことも可能です。CiNiiの利用に関する詳細は、<http://ci.nii.ac.jp/> をご参照ください。

なお、今後も紙媒体での紀要は継続して発行してゆきます。発行後1年間は紙媒体のみの提供とし、次号が発行された時点でCiNiiに登録されデータベース化されてゆくこととなります。何卒よろしくお願いいたします。

北の大地、北海道に5番目の支部が誕生。—— 設立記念研究大会の開催報告。

ATEM 北海道支部が 結成されました

2012年1月8日(日)
内田洋行ユビキタス協創広場U-cala

ATEM 北海道支部の設立報告



ATEM北海道支部長 秋山敏晴
(北海道工業大学)

この度、北海道に映画英語教育学会(ATEM)の5番目の支部として「北海道支部」が誕生しました。本稿では、設立までの経緯とその活動の様子の一部をご報告いたします。

北海道は、札幌、函館、小樽、釧路、富良野、夕張、歌志内など数多くの映画のロケ地を抱えているだけでなく、夕張では毎年「映画祭」が開かれるなど、人々の映画への思い入れはひときわ強い土地柄でもあります。ATEMが各支部を中心に活発に活動している中、北海道でも早く支部を設立し、地元会員に独自の研究活動や学術交流の場を提供したいと、支部設立が以前から検討されてきました。そしてようやくその具体的気運が高まり、平成23年10月、有志による支部設立世話会が組織され、平成24年1月の支部設立大会開催に向けて動き出すこととなりました。

平成24年1月8日、札幌市内で開かれた支部設立大会には予想を超える30有余名の参加があり、支部設立宣言に続いて、研究会となりました。(内容は別項に譲ります。)参加者の中には、中学校、高等学校の先生方のほかに大学生の方も複数おり、支部の未来を感じさせてくれました。加えて、ご挨拶と記念講演をいただいた角山照彦会長、遠路お越しくださった藤枝善之関西支部長、倉田誠専務理事、真下富雄事務局長、ワークショップを担当してくださったスクリーンプレイの河合利弘氏、鈴木誠氏といった皆様方に会を盛り上げていただきました。ご参加、ご協力

をいただきました方々に心よりお礼申し上げます。

大会終了後、支部会におきまして反省会を開き、新年度以降の活動について検討を始めました。更に2月、3月と支部勉強会を継続しております。支部の目標としては、

- 1.映画英語教育に関する情報収集と情報交換
- 2.実践的英語コミュニケーション能力養成のための映画英語教授法の開発
- 3.映画を活用した異文化理解教育の促進

を掲げ、具体的な取り組みとして、

- ・セミナーやワークショップの開催
- ・授業実践の発表と教材開発
- ・支部プロジェクトの検討
- ・研究成果の出版の検討

を視野に入れ、検討を進めています。

最後になりますが、支部設立に当たり、ご協力くださった皆様方の期待にお応えできるよう、研究活動を深め、英語教育に寄与できるようにと決意していること、そして、今後とも北海道支部の活動に一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

支部結成大会開催についての報告



紀要編集専務理事 塚越博史
(北海道医療大学)

ここでは参加者アンケートを紹介させていただきながら、大会を振り返ってみます。まず、プログラム全体についてですが「非常に良かった:81.25%」「概ね良かった:18.75%」ということで内容に関しては参加いただいた方全員に有意義だと感じていただけたようです。また、全体的に有意義だったかに対しては「大いに:93.75%」「概ね:6.25%」のように全員の方から好意的な反応をいただくことができました。

記述回答をいくつか紹介します。講演・研究発表・ワークショップに関して:「角山先生に授業実践のお話を詳しく教えていただき、4月から中学で英語を教える身として、先生のように是非とも映画を利用した学習指導を確立したいと強く感じました。」「社会人の方々に教えておられる松田先生のお話が大変参考になりました。大学でも社会人の方が増えたり、社会人用のクラスを担当したりしておりますので。」「塚越先生に実際の機器の使い方を見せていただけてとてもよかったです。」「いずれも新しい内容で、ありがたいものでした。」「授業に生かせそうな技やアイデアを教えていただき、感謝しております。」

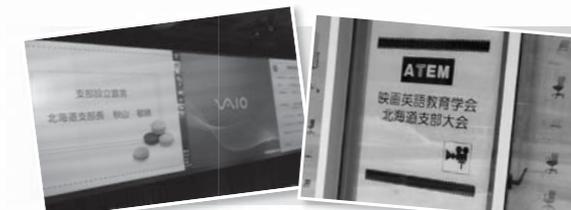
コーヒープレイクに関して:「いろいろな先生方と映画や英語教育のお話をするのができ、勉強になりました。」「たいへん工夫されていてよかったです。交流ができてよい企画でした。ご準備ごろうさまでした。」「その他:「大会としては年に一度ですか?その他に、短い時間でも構わないから簡単なワークショップなどが開かれればよいと思います。」

以上、今後の我々の活動に対して励みになるものばかりでした。支部会員のみならず全国会員、非会員の方たちに対して、これからも有意義かつ最新の情報を発信していくことができればと考えています。

講演

『学力の多様化に対応した映画英語教育のあり方』

本学会会長の角山照彦先生より80分の講演をいただきました。まず、映画英語教育の流れとその問題点について提示がありました。商業映画の教育現場での活用という発想がまずなかった60年代、「商業映画=娯楽」という概念が強かった70年代の話から始まり、90年代になってはじめて本格的に映画英語教育研究が開始されたなど、改めてその歴史を確認することができました。



続いて2つの問題点の指摘がありました。教材化の遅れという点の一つ目です。教材はシナリオ、といったように、教材が素材の段階に留まっている場合が多く、教材作成に多大な労力を要するという点です。二点目は指導法の未確立という点です。つまり、映画英語教育が動機づけといった情意面への効果に留まり、学習効果の実証に乏しいという指摘です。これらを踏まえて後半では、学力の多様化に対応した映画英語教育の実際について、理論と実践が話されました。(1)習熟度別授業による個々の学生のレベルに合ったきめ細かな指導、(2)授業外での学習時間の確保が可能となるe-ラーニングの導入、(3)リメディアル学習支援といった必要性に映画英語教育はどう対応できるか、現在、先生が実践されている具体例や開発された教材の提示がありました。

ワークショップ・研究発表

スクリーンプレイの鈴木誠氏から「iPENを用いた英語学習」と題してワークショップをしていただきました。参加者全員にiPENとスクリーン・プレイシリーズが配布され、その有用性を体験しながら活用法を考える機会が与えられました。体験後には活発な質疑応答があり、「スクプレの新商品」に対する理解を深めることができました。今後、価格面とソフト数での期待は大きいと思います。

二つの研究発表の一つは、ATEM会員で翻訳家の松田愛子先生による「字幕・吹き替え翻訳を知って楽しむ映画英語学習—カルチャースクール開講例—」でした。翻訳学校講師の経験、翻訳のプロとしてTV番組等の字幕・吹き替えに携わった経験をベースにしたユニークな発想による実践例の紹介がありました。特に「学習者が飽きずに英語と向き合える4段階の翻訳体験型演習」では参加者の皆さんの目つきは真剣そのものでした。

もう一つの発表は「ざっくり紹介、Webラーニングによる映画英語教育—YouTubeの活用法—」と題して、私が担当させていただきました。映画のシーンを専用機器で取り込み、それを編集してYouTubeにアップロードし、個別学習を促す方法を紹介しました。同時に、同僚と開発したYouTube利用のリメディアル教材の紹介、スロー・ラーナーに対する指導の工夫についての提案をさせていただきます。

北海道支部設立記念研究会プログラム

12:30~12:50	設立式、開会行事
12:50~13:20	研究発表① 「ざっくり紹介、Webラーニングによる映画英語教育—YouTubeの活用法—」 発表者 塚越 博史(北海道医療大学)
13:25~13:55	研究発表② 「字幕・吹き替え翻訳を知って楽しむ映画英語学習」 発表者 松田 愛(翻訳家)
13:55~14:40	コーヒープレイク 「教材を片手に、映画英語教育を語ろう」
14:45~15:15	ワークショップ 「iPenを用いた英語学習とは」 発表者 鈴木誠(スクリーンプレイ)
15:20~16:50	北日本支部設立記念講演会 & ディスカッション 「学力の多様化に対応した映画英語教育のあり方」 講師 映画英語教育学会 会長 角山 照彦(広島国際大学教授) 司会 映画英語教育学会 理事 秋山 敏晴(北海道工業大学教授)
16:50~17:00	閉会式

この夏、映画の都で 文化を語ろう!!

ATEM 第18回 全国大会のお知らせ

映画英語教育学会

一緒に全国大会を盛り上げましょう。

大会担当専務理事 亀山太一
(岐阜工業高等専門学校)



今年は古都・京都での全国大会開催となります。日頃から支部での研究活動が盛んで人脈も豊富な関西支部ならではのプログラムならびにゲストが揃います。

過去最高の参加人数を記録した昨年名古屋大会でしたが、その大成功の後を任された重圧をものともせず全国大会担当に名乗りを上げたのが関西支部です。期せずして、8月4,5日に

名古屋で全国英語教育学会、8月7,8日に神戸で外国語教育メディア学会が開催され、本大会は日程的にも地理的にもその中間に位置する大会となります。規模の上では両学会に太刀打ちできるものではありませんが、内容の濃さ、面白さでは決して引けを取らないと自負していますので、どうか多くのATEM会員のご参加をいただき、大会を盛り上げようではありませんか。

文化にこだわった夏の京都大会へ

実行委員長 藤枝善之
(京都外国語大学・短期大学)



第18回を迎える今年のATEM全国大会は、8月6日、日本文化を代表する都市、京都で開催されます。大会テーマは「映画で異文化理解を深める」Deepening Intercultural Understanding through Moviesで、文化にこだわったシンポジウムと特別講演を盛り込みます。

特別講演の講師は、京都外国語大学教授、タレント、作家と多彩な顔を持つジェフ・バーグランド先生で、講演のテーマは「映画で学ぶ異文化コミュニケーション」Movies in the Intercultural Communication Classroomです。

シンポジウムは、関西支部が企画した「映画で学ぶジェンダーと文化」と東日本支部が企画した「映像を読み取るカー異文化理解とメディア・リテラシー」の二つが用意されています。これらのシンポジウムは同時時間帯に平行して開催されるので、大会参加者にはどちらかを選んで参加して頂くことになります。

この他にも、中部支部企画によるワークショップ「英国王のスピーチ」を使用したiPen学習法の紹介や、北海道支部企画による特別発表も予定されており、全国のATEM支部がこの大会を盛り上げるために努力しています。

研究発表については、4室で16組が発表する予定です。英語学、英語教育、文学、文化などのテーマの下に多彩な発表が期待されます。

また、昨年に引き続き、会場の1室に会員著書展示コーナーを

設ける予定です。各自が自由に持ち込んで自著の宣伝をして頂ければと思います。さらに、協賛出版社による出版相談コーナーも設ける予定です。

最後に、特別講演会講師ジェフ・バーグランド先生の横顔を紹介させていただきます。バーグランド先生は、1949年 アメリカ合衆国南ダコタ州生まれ。同志社大学留学後、カールトン大学を卒業されました。再来日して同志社高校で教鞭を執っている時に、『世界まるごとHOWマッチ』などのテレビ出演でお茶の間の人気者になりました。現在は京都外国語大学教授として異文化コミュニケーションを教えるかたわら、KBS京都「羽田美智子の京都専科」の日本語ナレーションを担当され、BS朝日「いま世界は」では、番組コメンテーターとしても出演しておられます。また、日本語で執筆した長編推理小説がTVドラマ化されるなど、作家としての顔もお持ちです。著書は昨年の震災を機に執筆された、『受ける日本人 繋がる日本人』（出版芸術社）、『日本から文化力』（現代書館）、『古都殺人まんだら』（光文社）など。趣味は尺八、囲碁、少林寺拳法、サイクリングなど多彩です。現在は、京都鴨川沿いの町家に住んでおられます。



大会プログラム

9:00	受付開始
9:30	ワークショップ(中部支部企画)『英国王のスピーチ』を使用したiPen学習法の紹介
10:00	開会式
10:15	STEM特別発表
10:50	北海道支部特別発表
11:40	ATEM総会
12:00	昼食
12:40	研究発表(1)(2)(3)(4)
13:15	研究発表(5)(6)(7)(8)
13:50	研究発表(9)(10)(11)(12)
14:25	研究発表(13)(14)(15)(16)
15:00	シンポジウム1(関西支部企画)映画で学ぶジェンダーと文化 シンポジウム2(東日本支部企画)映画英語で異文化とリテラシーを学ぶ
16:05	特別講演 ジェフ・バーグランド(タレント・作家・京都外国語大学教授) 「映画で学ぶ異文化コミュニケーション」
17:25	閉会式
17:45	懇親会

研究発表募集要項

映画英語教育学会では、2012年8月6日(月)、京都女子大学において、第18回全国大会を開催します。研究発表を希望される方は学会公式HPの「会員専用ページ」にログインし「大会情報」から発表申込みを行ってください。「発表申込」のボタンは会費納入者のみ表示されますので会費を納入してから申込みを行ってください。手順は左メニューの「使用方法」に記載されています。下記の応募要項に従いメールによる申込みも可能です。

●応募締切:2012年5月5日(土)

●応募資格:ATEM 会員であり、会費を全額(2012年度分を含む)納入していること。共同発表者も同じ。

募集要項

以下の必要事項を電子メール本文に記載し、ATEM事務局宛(office@atem.org)に送信してください。

- 1.発表題目(日本語発表の場合は日本語、英語発表の場合は英語で)
(発表時間は質疑応答を含めて 30 分です)
- 2.発表者全員の氏名
- 3.発表者全員の所属
- 4.連絡先(代表者の住所、メールアドレス、電話番号)
- 5.発表概要(400 字以内、英語での発表は 200words 以内)

なお、原則として、パソコン画面投影用プロジェクターおよびスピーカー以外の発表用機器は、主催者側で用意できません。PCはご持参下さい(なるべくWindows PCをご利用ください)。

委員会報告

国際交流委員会より

2012年 STEM全国大会へのご案内

国際交流専務理事
倉田誠



平素より会員の皆さまには、国際交流関係の業務にご理解とご協力をいただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さてHPやNewsletterでもご連絡させていただいておりますように、当学会には大韓民国に映像英語教育学会(The Society for Teaching English through Media: 通称STEM)という姉妹学会があります。この学会はこれまでは4月の第3土曜日に全国大会を開催していましたが、私たちATEMの会員は4月が繁忙期であることを反芻され、2012年以降は5月の第2土曜日に開催するというご英断を下していただきまし

ATEM代表の発表者と題目(50音順/敬称略)

1. 大木正明(大分工業高等専門学校) “How to Help Students Write a Movie Report”
2. 高窪雅基(Social Media Japan Co.Ltd) “Learning English through Movie Using Social Media”
3. 山本五郎(広島大学) “English Movie Corpus for Vocabulary List Development”
4. 吉川裕介(佛教大学/非) “Idiomatic Constructions and Their Emphatic Meaning”

紀要編集委員会より

紀要編集専務理事
塚越博史

ご存じのとおり本学会の紀要は、角山前委員長編集の前号より紙面が一一新されました。英文名称もATEM Bulletinから、よりモダンなATEM Journalへと変更となっています。これに対しては複数の会員の皆様からの好評の声を耳にしていますが、肝心な中身もさらに充実したものにすべく、編集委員一同、精一杯力添えをさせていただきました。しかしながら、委員長である私の不手際から、うまくいかなかった部分も多くありました。特に、執筆マニュアルに沿っていない個所のチェックとその修正依頼が十分にできませんでした。まずお詫びいたします。この反省を次号編集時に生かしたいと思っております。

さて、今年度は原稿募集に対して11件の応募がありました。編集委員会では査読委員から寄せられたコメントシートを基に慎重に審議を重ね、7編を理事会に上申しました。7編のうち4編は研究論文、3編は教育実践報告でした。採否の結果に関わら

た。したがって本年は5月12日(土)に開催され、会場は韓国外国語大学ソウルキャンパスとなっております。ちなみに大会テーマは“Beyond the Borders”となっています。

周知のとおり、本年よりSTEM大会での研究発表の希望者は公募制にすることになり、ATEM国際交流委員会とATEM理事会の2段階構えでの多角的な審査を行い、下記の4名の方々を2月中旬にSTEM理事会に推薦いたしました。STEM理事会も厳正なる審査の上、私たちが推薦した候補者にご発表いただきたいというご連絡を3月中旬に下さいました。

毎春15名前後のATEM会員が渡韓し、STEM会員と学術交流を行います。本年は他の会員の方々にもご同行いただければと、この案内文を書かせていただいております。現地の英語教員との交流や資料収集等の有意義な体験ができると自負しておりますし、なかなしく下記の4名の先生方の応援もいただければ感謝申し上げます。GWの次の週末であり、航空運賃も安価になっておりますので、ご一考いただければ幸いに存じます。詳細な情報に関しましては、ATEM各支部の事務局までお早めにご連絡ください。支部の責任者からのご連絡をいただき次第、私たちがSTEM事務局に至急連絡を取らせていただきます。

ず、論文執筆にあられた投稿者の努力に敬意を表しますと共に、査読者からのコメントを今後の研究に活かして頂ければと思っております。

投稿された論文の多くが高い評価を受けての採用になった一方で、今回も投稿規定に沿っていないものが数多くありました。特に参考文献の記載に誤記が散見されました。また、アブストラクトの記載場所も冒頭へと変更されていますが、最後に記載している例がありました。タイトルと執筆者名の英語表記がないものもありました。応募される方はAPAマニュアルとともに、投稿規定、ガイドラインをご熟読下さり、体裁を整えてからご投稿くださいますようお願いいたします。委員会でもガイドラインのさらなる充実を図っていきますが、投稿される方におかれましては投稿前の細かいチェックをよろしく願いいたします。なお、「この部分に関して具体的にガイドラインに掲載すべきだ」という項目がありましたら、お気づきの時に委員会にお知らせいただけますと幸いです。

それでは次号、第18号へのご投稿をお待ちしております。

広報委員会より

広報専務理事
塚田三千代

広報委員会は、会員個人や他学会員から提供された研究情報を公開して相互に共有しあい、「映画英語教育」や会員個々の「学術研究」に役立つことを目指して活動しています。

昨年に引き続き①②③に係わる業務を行っています。

- ①ATEM「映画英語教育学会」公式サイト管理編集(更新)
- ②会報 Newsletterの編集と発行(9月、3月の年2回発行) Newsletterの既刊号をホームページで公開しています。
- ③「映画と文化・英語」の原稿を募集し、寄稿していただいた原稿をHPで公開しています。(締切日:各月5日)

支部報告

東日本支部

第2回東日本支部大会(大会テーマ:第二言語習得の観点から映画英語を考える)を2011年12月18日(日)に麗澤大学東京研究センターで開催しました。総会では吉田雅之氏(早稲田大学)が新支部長に選出され、麗澤大学教授の望月正道氏に「第二言語習得研究に基づく効果的な英語語彙指導法」と題する講演をお願いしました。関西支部の藤枝善之支部長(京都外国語大学、「Here's looking at you.」「君の瞳に乾杯」の文法構造」と横山仁視氏(京都女子大学、「Let...goの多義性をめぐって」)の研究発表の他、6件の研究発表・実践報告がありました。60名を超える方に参加して頂き大会終了後の懇親会も大いに盛り上がりました。

冬季例会を2012年2月26日(日)に同会場で開催し、2件の研究発表がありました(東海林宏司氏(茨城キリスト教大学)「英語のテレビドラマを利用した大学における演習授業の試み」、原田知子氏(武蔵野音楽大学)「ラブソングができるまで」で学ぶ文法)。

今後の予定は以下の通りです(場所は麗澤大学東京研究センター、詳細は未定)。春季例会5月20日(日)、夏季例会7月22日(日)、第3回支部大会11月25日(日)

中部支部

(1)中部支部活動報告 昨年度より、東海支部から新たに中部支部が設立されたことにより、中部支部内に様々な委員会が発足されました。そのうちでも特に、「中部支部映画英語アカデミー賞委員会」では、小学生、中学生、高校生、大学生向けの英語学習のためにその年にDVDとして発売された最新の映画について、メンバーを中心に研究しています。

また、中部支部では最近の傾向として、小学校、中学校、高等学校の先生方の入会が多くなったことをご報告させていただきます。これから、小・中・高・大の英語教育の連携に向けて一層、交流が行われることを期待しております。

(2)今後の活動予定 中部支部では6月頃に、ATEM中部支部研究大会と中部支部映画英語フェスティバルを同時に開催する予定です。また、中部支部としてエリアが拡大されたことに伴い、これまで愛知や岐阜でのみ行われていた月例研究会のほかに、静岡研究部会、北陸研究部会、三重研究部会が発足されましたので、このエリアでの研究会も随時、開催させていただきます。会員の皆様方のご参加をお待ちしております。

④メルマガの編集 (仮称 "atem info")

今年度からメルマガの編集を広報委員が担当します。

大会研究発表者募集、支部大会発表者募集、紀要(ATEM JOURNAL)、その他の原稿募集のお知らせなどをMLで情報提供します。

これらの業務を2012年度は広報委員が担当しますので、会員の皆様には宜しくお願いいたします。

塚田三千代(映画・映画英語アナリスト)*

松田 愛子(翻訳家)

横山 仁視(京都女子大学)

大木 正明(大分工業高等専門学校)

清水 純子(慶応義塾大学) *印は委員長

関西支部

昨年は、10月8日(土)に第9回関西支部大会を京都女子大学にて開催し、60名ほどの教員・学生が集まりました。教室はシンポジウムのテーマに合わせて法廷教室を使用しました。今回はATEM会長の角山照彦先生と中部支部の松葉明先生を発表者としてお招きし、支部間の交流を図りました。また、特別講演の講師として、東京大学名誉教授の藤倉皓一郎先生をお招きしました。

■研究発表—「映画に見るbe toについて」衛藤圭一、「映画英語データにみる資格試験用語彙教材の妥当性」山本五郎、「映画の台詞に見られる描写述語の多様性」松井夏津紀、「習熟度別教育に対応した映画教材の開発」角山照彦

■シンポジウム—テーマ:「十二人の怒れる男」徹底活用法」テレビ版と映画版の両方に見られる「穴構文」とその生産性」倉田誠、「少年が父親を殺したことに合理的な疑いは残らないか?」家本真実、「中等教育における本作品の活用法」松葉 明

■特別講演—「陪審員制度と『十二人の怒れる男』」藤倉皓一郎

今年は支部結成10周年に当たり、第18回全国大会の会場運営、記念交流会の開催、記念論文集の発行など多彩な記念行事を計画しております。

九州支部

2011年、九州支部の最大行事は、11月19日(土)の九州支部大会でした。今回、初めて熊本の九州ルーテル学院大学を会場とし、「小学校で使えるアニメーションを利用した異文化&英語教育」というテーマで各発表が行われました。講演では、熊本大学的小林美代子先生による小学校の英語教育に対する御自身の御考えや日本語をはじめとする言葉の面白さ・大切さを織り交ぜながらの御話をしていただけ、非常に印象深い大会となりました。

毎回のことではありませんが、九州支部大会は研究発表から懇親会に至るまで終始和やかな雰囲気の中で行われます。今回は、残念ながら韓国STEMからの参加者はありませんでしたが、ATEM会長の角山先生に御参加いただき、盛況のうちに終わることが出来ました。2012年度の支部大会につきましても、小林新支部長を中心に、支部大会及びATEM全体が盛り上がるよう計画を進めているところであります。

尚、今年も5月に開催される韓国のSTEMへの参加者、および8月に開催されるATEM全国大会への参加者を出来るだけ多く募りたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

第16期(第17期) 映画英語教育学会 2010年(2011年) 決算報告書

2011年3月31日

(2010年1月1日～2010年12月31日)
(2011年1月1日～2011年 3月31日)

収入の部			支出の部			
		2010年1月～12月決算	2011年1月～3月決算		2010年1月～12月決算	2011年1月～3月決算
前年度繰越		1,192,236	561,871	大会開催費	320,007	0
会員年会費	07～10年	1,215,000	85,000	紀要発行費	393,645	370,860
	11年	15,000	510,000	ニューズレター発行費	26,670	0
	前受金	0	35,000	ホームページ維持費	35,910	35,910
賛助会費	10年	40,000	0	研究活動費	200,000	0
	11年	0	10,000	事務用品費	15,928	980
大会参加費	会員	37,000	0	通信費	112,398	40,985
	非会員	36,000	0	支部助成金	150,000	0
大会懇親会費	理事／一般	148,000	0	会議・遠隔地補助	301,159	0
	STEM	18,000	0	国際交流費	30,000	0
書籍売上		27,000	19,500	交際費	15,750	0
受取利息		280	27	雑費	7,010	840
雑収入		7,332	320	運営費用(システム開発費)	525,000	0
預かり金		1,000	0	仮払金	21,500	0
				未払金	20,000	10,000
				小 計	2,174,977	459,575
				みずほ銀行	139,832	528,924
				郵便振替口座	72,916	232,736
				小口現金	349,123	483
				翌年度繰越金	561,871	762,143
合 計		2,736,848	1,221,718	合 計	2,736,848	1,221,718

※個人会員346名・賛助会員6社

2011年3月吉日 上記の通り相違ありません。
会計監査 長田 美保 新田 晴彦

『個人のページ』の情報確認・修正のお願い

<https://www.atem.org/member/>

ATEM会員管理システムには、会員皆さま方の情報を確認・修正して頂ける『個人のページ』を作成しております。『個人のページ』の情報確認・修正をお願い致します。

問い合わせ先: 映画英語教育学会(A T E M)本部事務局
T E L : (03)3365-0182 E-mail: office@atem.org